

Hospital Concert

『世界の車窓から』でお馴染みのチェリスト
溝口 肇チェロコンサート

溝口 肇 (チェロ)



Emy Todoroki Schwartz (ピアノ)

【日時】 2016年3月17日(木)17:00~17:40
(1階ホスピタルストリート)



がん研有明病院
THE CANCER INSTITUTE HOSPITAL OF JFCR

【プログラム】

♪. 世界の車窓から

♪. 誰も寝てはならぬ

♪. 黄昏のビギン

♪. She 他

【出演者プロフィール】



溝口 肇 (Hajime Mizoguchi)

カラヤンをテレビで見て3歳からピアノを始める。パブロカザルスが国連議会議場での「鳥の歌」演奏をテレビで観たこともきっかけとなり、11歳よりチェロを始める。東京芸術大学音楽学部器楽科チェロ専攻卒業。卒業後、スタジオミュージシャンとなり6年ほど様々なレコーディングに携わる。23歳の時に自身が起こした自動車事故によってムチウチ症となり、その苦しみから逃れるため「眠るための音楽」を作曲し始める。その後「眠るための音楽」は自分自身のソロ楽曲として書きためられ、1986年『ハーフィンチデザート』(Halfinch Dessert)でソニーからデビュー。

以後、クラシック、ポップス、ロックなど幅広いジャンルで演奏・制作活動を展開。作品には映画音楽やテレビ番組の音楽として用いられているものが多く、29年続いているテレビ番組「世界の車窓から」のテーマ曲はあまりにも

有名。日本たばこピースライト、ギャラクシー企業イメージのCMにも出演し、多くの人々にその姿と音楽を印象づけることになった。

溝口肇のベースは作曲とチェロ演奏だが、デビュー30年の経験は活動の幅や表現方法も音楽だけに留まらず、あらゆる分野での可能性をさらに模索している。自身の音楽を「心の覚醒」と位置付け、自分自身はもちろん聴く人にとっての何かのきっかけでそして彼の奏でるチェロの美しさ、そのホスピタリティあふれるサウンドは、ジャンルを越えて多くの人を魅了し続け、ミュージックシーンに独自のスタンスを確立している。



エミィ トドロキ シュワルツ (Emy Todoroki Schwartz)

3歳よりピアノをはじめ。

東京音楽大学付属高校を経て2001年に渡米。

テキサス大学オースティン校奨学生としてピアノ演奏科学士課程修了、
ニューヨーク大学奨学生としてピアノ演奏科修士課程修了。

故カール=ハインツケマーリングマスターコース修了。NY大学のピアノ
非常勤講師として教鞭をとる。

2009年にカーネギーホールにてソロデビューリサイタル。指揮者ブレット・
ミッチェル、マイケル・ランカスター各氏のもと、ピアノコンチェルトを協演。

日本、スペイン、アメリカ各地にてソリスト、室内楽奏者として精力的に

演奏活動を行う。2015年GRACE MUSIC LABELよりピアノアルバム「bloom(ブルーム)」にて本格的デビュー。繊細で大胆な演奏は記憶に残るものであり、今後の活躍にますます期待が高まる。

【ホスピタルコンサートのご報告】



今月は4度目のご出演となるチェリスト溝口 肇さんと、ピアニストのエミィ・トドロキ・シュワルツさんによるコンサートを開催いたしました。BS フジにて放送中の番組「ヨーロッパ空中散歩」のテーマ曲も収録されているCD『LOVE SOUNDS』がコンサートの前日 3/16 に発売されたばかり、大変お忙しい中、有明までかけつけてくださった溝口さんは、新しいCDからオリジナル曲や、カバー曲としてちあきなおみさんの『黄昏のビギン』などたくさんの曲を演奏してくださいました。また、エミィさんにはピアノ独奏でブラームスの『Intermezzo』を演奏していただき、にこやかにリズムをとりながら聞かれる方、目をつぶってじっくりと聴き入っていらっしゃる方、皆さまそれぞれにチェロとピアノの音色を楽しんでいらっしゃるようでした。コンサートのラストを飾ってくださったのは溝口さんの代表曲『世界の車窓から』、この曲が流れると様々な思い出が甦ってくると、入院患者さんが感動の涙を流していらっしゃいました。溝口さんの優しいお話と心に染み入るチェロの演奏に、患者さんも、ご家族も、そして職員にも癒しとなる素敵なコンサートとなりました。